

## わたしのキャリアの棚卸 自分らしい人生のあり方

市では、男女共同参画計画「まいプラン(第3次)」の中で「男女が共に参画し活躍できる環境づくり」を掲げており、女性の活躍推進やワークライフバランスなどの取り組み、市民の意識啓発などの取り組みを推進しています。

性差に関係なく、誰もが平等に活躍でき、働き続けることができる社会を目指し、今回は、さまざまなサポートを受けながら家庭と仕事を両立し、時代の転換期を乗り越えながら、後輩への道筋を残そうと自分のキャリアを歩んでおられる人を紹介します。



JA京都にのくに  
八田支店 支店長  
増山 佳苗さん  
舞鶴市在住

## これからの若手職員のレールをつくる 男性・女性関係なく活躍できる職場に

### ◆新しい役割への戸惑いと決意

今春の人事異動で支店長となり、それを聞いた時は「私にできるかな」と正直戸惑いの方が大きかった。でも、部長級に女性の先輩が1人おられるのを見て「私も頑張ってみよう」と決意。

組合では、10年ほど前から関係団体の幹部候補職員が集まり1年間かけて経営や企画力など、管理職に必要なスキルを学ぶ研修制度に毎年3人登録し、そのうち1人は必ず女性が参加。増山さんもその8期生である。「通常業務をこなしながら、毎月1回遠出して、研修を受けレポート作成、論文の発表など大変でしたが、他の団体職員ともつながりができ、自分の視野も広がって貴重な経験をさせてもらいました」と振り返る。

### ◆仕事と家庭の両立

23歳で入組してから、窓口業務を中心に支店でキャリアを積む。その間、20代で結婚し出産を2回経験。「育児休暇もすっかり取らせてもらい、復帰後は時短制度も利用させてもらうなど職場環境には本当に恵まれていました。子

育てと仕事の両立は大変でしたが、保育園の延長保育や学童保育など公的制度の活用、そして何より夫や家族の協力は大きな支えでした。ただ、子どもが保育園に入る前にサポートしてもらっていた義母が亡くなったときは、やっぱり仕事を続けるのは無理かな、と悩みましたが、離れて住む実母から『できるだけ支援するから頑張って仕事は続けよう』と後押しを受け、これまで続けてこられました。だから自分の子どもにも私が助けてもらったことは同じようにしてやりたいと思っています」と当時を振り返り心境を語る。

転職が訪れたのは40代前半の配属転換。これまで男性中心の業務であった外回りの営業を担当することになった。今まで以上に仕事に対する責任を感じるようになったが、最初は上司がサポートとして一緒に外回りを行い、徐々にこなせるようになっていく。同僚の男性職員からは『お客さんの家のインターホン鳴らしても女性職員の方が出てきてもらえる確率が高いね』と言われる。柔らかなコミュニケーションの取り方がメリットであることに気付けた。

### ◆増山さんのキャリア

20代 大学を卒業し、地元「JA」へ就職。  
支店の窓口業務に励む。

### 30代

結婚。  
第一子を出産し、子育てに忙しい日々を過ごす。  
第二子も出産し、より子育てが忙しくなる。

### 40代

窓口から営業などの外回りへ業務が変わる。フレックスタイム制度を活用。  
京都市内で行われる月に一度の管理職の研修に出席。優秀な成績で研修を終える。

### 50代

主任、係長、課長へ昇進を重ねる。  
今年度から支店長へ昇進。

フレックスタイム制度も活用し、残業になる日は家の用事を済ませてから遅めに出勤するなど工夫した。そして同時期に幹部候補の研修にも参加する中で、主任、係長、課長とキャリアを積んでいくことになる。

管理職が集まる会議の顔触れは、まだまだ男性が多いが発言しにくい雰囲気は全くなく、男性女性関係なく働きやすい職場だと感じていきました。

### ◆これからの働き方と役割

同年代の女性同僚も多く、支店や部署は離れていてもいつでも気軽に相談でき、他愛もない話で息抜きできる環境がある。職場では、女性の部下はもちろんだが、誰もが相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。結婚や出産などライフイベントを機に辞めてしまいう職員もいるが、できるだけ長く働きたいという環境づくり、女性ならではの気配りをしていきたいと考えているという。

女性であってもいろいろな部署を経験し管理職への挑戦もできるという道筋を作り、後輩たちの育成とチャレンジできる環境を後押ししたいと話す。

現在は、子どもも大学生になり少し時間にもゆとりも出てきた。仕事と家庭の両立で日々追われている世代に伝えたいことは「職場、家庭、公的サポートなど



▲同僚と談笑する増山さん

借りられる手は全て借りてほしいです。どうしても仕事のウエートが負担になるときは思い切って減らす勇氣も大切。無理せずに働き続けてほしいです。たくさんさんの経験を積んできたからこそ届けられるエールだ。

休日は家でテレビドラマを見たり、音楽を聴いてゆっくり過ごすのが楽しみだそう。

### JA京都にのくに

### 企画管理部長 深井忠進さん

男性・女性関係なく、能力のある人がなるべき職につき、能力を発揮できる職場づくりを目指しています。今年の新規採用職員は、偶然全員が女性になりました。性別に関係なくキャリアを積める環境を整えていきたいです。

### 「女性のための相談室」を開設中

～つらい時はぜひ相談してください～

夫婦・親子関係、DV、生き方や性格、職場・近所の人間関係など日々の暮らしの中の悩みなど相談できます。

◆一般相談 性相談員による電話相談、面接相談  
9時～16時(土日祝日、年末年始を除く)  
【専用電話】65・0056

### 毎年6月23日～29日は 「男女共同参画週間」

今年のキャッチフレーズは「女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ。」(内閣府)。性別に関係なく、一人ひとりが大切にされ、個性や能力を生かし、生き生きとした生き方ができるよう、みんなが責任を持って協力する社会を作りましょう。